

2024. 6. 20 毎日感動です ～ある日の年少のチョウとの関わり～

虫が大好きな子供たち。年少さんも、入園当初から、プランターやブロックをずらしてダンゴムシがいないか探したり、植木鉢や花壇の上を飛んでいるチョウを見つけてつけて捕まえようとしたり、お友達が家から持ってきた虫を観察したりと、日々いろいろな虫との関わりがあります。

先日の好きな遊びの時間には、年少保育室近くの花壇の上を、2匹のツマグロヒョウモンが飛んでいました。それを見つけて、年少のA君が、透明の飼育ケース二つを持って、チョウを捕まえようと頑張っていました。そして、なんと2匹とも捕まえることができました。自分で捕まえることができた大事な大事なチョウです。そのチョウを、「ほしい」と言ってきたB君に1匹わけてあげました。A君は小さな飼育ケースに、B君は、飲み物の小さな空き容器にチョウを入れました。

その後のみんなの時間に、A君とB君は捕まえたチョウを紹介し、みんなでチョウを見ました。そのチョウをどうするか…A君もB君も、大事なチョウを入れてあるものから出そうという気持ちにはなれません。でも、小さいいれものの中のチョウは、なかなか動きづらい状態です。そこで保育者が、A君のチョウを、子供が入れるほどの大きさのネットの囲いの中に入れて見るのはいかがでしょうかと提案したところ、そうする、ということになり、ネットの囲いの中にチョウを入れました。A君たちは、チョウと一緒にネットの中に入り、目の前でチョウが羽を広げると、驚きの表情を見せていました。しばらくした時に、ネットの隙間から、チョウがネットの外に出て飛んで行ってしまいました。一緒にチョウを見ていた子は、「ツマグロヒョウモン、元気でね」、とか「こんな風にひらひら飛んでいった」と両手をチョウのようにひらひらさせて様子を表したりしていました。A君は、残念そうな顔をしていました。しかし、お迎えに来たお家の人に、担任がお家の人にチョウの話をした時に、A君は「いれものが狭かったから逃がしたんだ」とお家の人に話していました。時間が経過し、チョウをケースからネットの囲いの中に出して見たことやそこから逃げていったことを、そんな風に思えるのだなあと知りました。

小さい飲み物の容器にチョウを入れていたB君は、ネットの囲いの中にチョウを出すことには、いいなと思えなかったようで、しっかりとチョウの入った容器を握りしめていました。保育者が、「チョウさん、何が好きな」と問いかけると、子供たちから「お花」とかえってきました。「チョウさん、お花が好きなんだね。それじゃあ、お花のところに行かせてあげるとどうかな」と提案しました。すると、B君はそれに納得して、容器からお花の植木鉢の上にチョウを出してあげることにしました。すると、チョウは、容器から出されて、植木鉢のお花の上にとまりました。その様子をみんなじっと見ていました。しばらくすると、チョウは、ひらひらと飛んでいきました。一緒に見ていた子が、「また、遊びに来るかな」と言いました。B君は「また来てね」と言って見送りました。午後になり、年少保育室の花壇のところに、1匹のツマグロヒョウモンが飛んできました。B君が、「遊びに来たのかな」と、保育者と一緒に話をしていました。

この話は、年少の担任が、保育後、職員室に戻って来てしてくれたのですが、幼稚園に勤務し年少の保育サポートに入るようになって2年目になる職員が（実際にその場面にも立ち会ってもいて）、職員室でこの話が出た時に、「毎日感動です」とおっしゃいました。幼稚園勤務の前は、もっと年齢の大きなお子さんと過ごす職場にいらした方です。

入園してもうすぐ3か月となる年少さん。朝、玄関でお家の人と離れることが悲しくて泣いていた4月。それが、園で先生や園の環境にだんだん慣れて登園することが楽しみになる子が増え、知っている友達が増え、好きなことが一緒に子と遊んだり、自分がしていなかった遊びを知ってやってみたり、集団だから喜怒哀楽の種類も回数も多い生活の中で、だんだん気持ちを調整して人やもの、ことに関わっていける場面が増えていく、このような成長する姿に出会える、園は感動のある職場です。

